

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174300432
法人名	特定非営利活動法人三山の家
事業所名	グループホーム元気村
所在地	〒367-0006 埼玉県本庄市田中105-1 (電話) 0495-22-8182

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.75人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造り 1階建ての1階部分
------	------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	無	実費	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
または1日当たり1,200円					

### (4) 利用者の概要(平成20年6月1日現)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上武病院、やまぐち内科、石原歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、門扉もなく、玄関口には近所の飼い猫が気持ちよく寝ている光景も見られ、利用者がゆっくり過ごすことができる雰囲気を持つ平屋の1ユニットのグループホームである。職員の意欲と融和により、理念である「ゆっくり、のんびり、穏やかに」の実現を目指したホームである。ホームとしての緩やかな1日の過ごし方があるものの、一人ひとりの生活のペースを尊重した支援が行われている。利用者はアニマルセラピーや音楽療法などを楽しみに行っている。利用者の趣味や特技を活かした作品も居室やリビングに飾られ、利用者が自尊心を持って暮らせるように支援している。利用者の全体像を理解できるようにしっかりアセスメントし、ケアプランを立てている。家族には定期的に各種資料を送付するとともに運営推進会議に多くの家族が参加するなど、透明性の高い事業運営がされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>服薬の管理や危険物の管理については改善されている。申し送りについては、特別にミーティングの時間は取っていないが、業務日誌などの徹底と職員間の円滑なコミュニケーションの確保を基本として情報の共有化に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が今回の自己評価に取り組み、全体の意見を確認した上で外部評価資料として提出された。自己評価の中で取り組んでいきたい項目(内容)については、外部評価の結果とあわせ外部評価を改善のツールとして理解し、職員の意欲向上を図りつつ、業務の改善に積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会、家族のメンバーを主として運営推進会議が行われている。特徴として、開催に当たっては家族全員に参加を呼びかけ、常時5人から6人の家族が参加している。市及び地域包括支援センターは会議のメンバーにはなっているが、会議に参加するまでには至っていない。地域包括支援センターとは日常業務の中で、情報連絡を行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議の前には、アンケートを求めるなど家族の意向を把握する仕組みが出来ている。会議の参加率も高く、活発な話し合いがされている。また、苦情があった時は申し出者のみならず、そのほかの家族にもホームとしての対応をフィードバックするきめの細かい対応がされている。会議後は家族が揃ってお茶会を行うなど家族同士の交流も行われ、多様な情報が家族に提供されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、クリーン活動に参加している。自治会長は運営推進会議のメンバーとして参加している。関係づくりには努めているが、災害時などの協力を得られるまでには至っていない。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	17年に理念を改定した。その人らしい生活を目指す「ゆっくり、のんびり、穏やかに」を理念とし、一人ひとりの生活と利用者の生活を重視した内容となっている。しかし、地域密着型サービスの役割として、地域生活の継続や地域住民との交流などを目指した内容が入っていない。		利用者が地域の中でその人らしく生活していくために、何が大切かを話し合い、今の理念に新しいサービスの考え方を加えていくことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者がリーダーシップを発揮して、理念の具体化に取り組み、職員全体に浸透している。また、事務所などには理念が掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、クリーン活動に参加したり、幼稚園や高校との交流が行われている。自治会の行事には参加しているが、積極的な関係を築くまでには至っていない。		地域との交流は地域を住みやすくすることにつながる。ホームの行事に自治会の方を招待したり、防災への協力を依頼できるような関係づくりをさらに深められることが期待される。地域の民生委員の協力も考えられる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点についても職員で話し合い、ホームの運営の改善を図っている。今回の報告書の取りまとめも職員全員が行い、その全体像が一つの報告書として提出された。取りまとめの作業過程が職員の「気づき」につながり、外部評価の趣旨が具体的に活かされた取り組みとなっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、透明性のあるグループホームの運営に努めている。市及び地域包括支援センターには委員としてお願いし働きかけているが、実際に参加するまでには至っていない。会議には家族全員に呼びかけ、常時5人から6人の家族が参加している。事前に家族アンケートも行い、家族の意見を反映するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族に送付しているホーム便り、写真など同一の送付物を市や地域包括支援センターにも提供し、連携を図る努力を積み重ねている。また、市・保健センターの専門的指導の協力が得られている。市担当者とは必要に応じて相談するように努めているが、例えば市の担当者がホームに訪問するなどの関係までには至っていない。		市内にホームが多いこともあり、市担当者の運営推進協議会への参加は難しい状況にあるが、出席につながる取り組みとしても、相互に行き来する機会を積極的に作ることを望まれる。また、地域包括支援センターとは日頃から情報交換が行われているが、地域ケア会議に参加したりなどして、サービスの質を一層高めることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者の様子が理解できる便りや担当者からの手紙、ケース記録などが送付されている。送付物は十分過ぎるほどである。必要に応じて電話等で報告もされる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回開催される運営推進会議に家族が5人から6人は参加するなど参加率が高く、家族の意見も反映されやすい。また、必要に応じて家族アンケートが行われ、その回収率も高い。透明性のある運営が図られている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は殆どない。職員は原則、正規職員で採用されており、退職の比率は低い。法人で3か所のグループホームを運営しているが、人事異動の場合は、事前に利用者には丁寧に説明をするように考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月ごとに内部研修会を開催している。最近では「認知症高齢者への環境支援のための指針PEAP」について行った。また、研修参加者のフィードバックレポートの作成も行われている。さらに県外ではあるが、介護センターの研修に参加している。職員の質の向上が大切であるとの認識に立った取り組みを行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合には積極的に参加している。市内にグループホームは多くあるが、交流は少ない。しかし、協議会などで知り合った市内のグループホームとは必要に応じて連絡を取り合うことが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用する前にはホームに見学に来てもらい、利用者と一緒にお茶を飲みながら話をするなど、馴染めるように工夫している。タイミングが合えば、利用者がとても楽しみにしている音楽療法の時間に見学に来てもらうなどの工夫も図っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームは生活の支援の場であるという認識を持っている。利用者の気持ちを大事にしながら、じっと待つということにも気を配り、利用者自身が自らの力で取り組めるように支援している。掃除、洗濯ものたたみなど、様々な生活の場面で利用者にも無理のない範囲で声掛けなどをして参加してもらい支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時に生活歴などを家族から聞き取ったり、日々の生活の中における利用者との会話などから、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の健康状態、日々の過ごし方、社会生活歴などの情報を収集し、利用者の全体像の理解を踏まえたアセスメントを行っている。また、利用者の希望と入所時や面会時などに家族から聞き取った希望を反映するように努めている。担当職員と介護支援専門員が中心となって職員間で話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月ごとに見直しを行っている。状態に変化が生じた際は、職員会議などで話し合いが行われ、現状に即した介護計画の変更に努めている。職員のチームワークも良く、情報の共有化も図られている。利用者の状態の変更に合った支援が先行し、計画の修正が後付になる場合もある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの職員は出来る限り多様な希望に沿っていきたいと考えているが、ホームの機能性、家族の役割との整理に悩んでいる。その中でも、病院の付き添い、病院との連携、移動、買い物など状況に応じた支援に取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関に通院しているが、家族の同行が困難な場合は職員が付き添っている。ホームの協力医療機関には、必要に応じて連絡が取れるようになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで対応できないことについては、家族に話している。入院時には早い段階で家族や医師と話し合いがもたれている。		今後、重度化に至った場合の考え方について、共通認識を持つために継続して話し合いが望まれる。ホームは人生後半の生活の場であり、利用者が人生をどのように全うしたいのか、利用者のニーズがどのようなところにあるのか、職員と家族が役割分担しながら、医師や看護師の所見を踏まえて、どのように対応できるのか、具体的な方針を共有化するための継続的な取り組みが期待される。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事中の利用者の食べこぼしや箸を落とした時もさりげなく支援し、他の利用者に気付かれないように配慮している。言葉かけにも注意を払っている。居室への入室時もノックするなど、ルールを遵守した対応が行われている。また、記録もイニシャルを使うなどプライバシーの確保に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体では緩やかな一日のスケジュールがあるが、一人ひとりの生活のペースを大切に支援を行っている。諸行事への参加も本人の意思を尊重している。食事の時間も体調によって時間をずらすこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は利用者で話し合いながら立てている。食材の購入も利用者が参加するなど、食事を楽しむ準備段階から利用者主体が買われている。茶碗なども一人ひとりの好みに合ったもので、質感のある食器が使用されている。テレビは止め、静かなBGMが流れ、落ち着いた雰囲気の中で食べることが出来る。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は職員体制もあり、週3日となっている。入浴はホームの生活の中で一人ひとりの希望やタイミングに十分に應えるまでには至っていないが、入浴時間や温度などは健康状態に配慮した対応に努めている。入浴できない利用者には声かけなど工夫しているよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技や趣味を活かした俳句、書道、切り絵などが飾られ、楽しみごとにも励んでいる雰囲気が感じられる。また、アニマルセラピー、音楽療法などにも取り組んでいる。音楽療法が行われる際は、利用者が先生を玄關まで出向き迎え入れ、童謡などの合唱、話や笑いが絶えず、楽しみにしている様子が伺える。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなどに出向いている。平均すると週1回から2回の外出の機会となっており、利用者の意向を充足するには不十分と受け止めている。職員体制の問題もあるが、出来るだけニーズに応じ、増やしていきたい意向を持っている。		職員の補充募集をしていることから、体制が整った段階でどのような外出支援ができるのか検討を期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄關に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者の安全を確保しながら自由な暮らしを支えるように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画にのっとった訓練は年2回実施しているが、地域の協力を得るまでには至っていない。備蓄や地震対策などは行っていない。		地震対策については市の防災計画との整合性にも配慮した検討が期待される。併せて、災害から利用者を守るためには初動が大切であり、自治会(自主防災会)などに協力を働きかけ、地域と連携をとりながら協力体制を築いていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	市の栄養士の協力により献立の評価をしてもらい、適正な栄養とカロリーの摂食に努めている。一人ひとりの食事量や水分量などは記録化していないが、状態の変化がある場合は業務日誌や職員間のコミュニケーションで共有するようにしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「認知症高齢者の為の環境指針PEAP3」を共有空間づくりの指針としている。リビングは整理整頓され、ソファを配置してゆったり過ごせる空間を確保している。食事をするテーブル部分の天井や玄関を入った廊下部分には季節感のある装飾がされている。ホームの共用空間づくりの基本として、季節感のある空間をつくりだし、居心地のよさを確保したい考えである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人らしさを感じるものである。大型のテレビが配置されていたり、家族の写真や自分の趣味として書や俳句などが飾られ、その人らしさを大切にした生活空間がそれぞれつくられている。		